

## 昭和切手

伊藤 純英 (S-5963・長崎)

本年は昭和100年となる年である。昭和の初めは大正切手の延長で10年ほど過ぎたが、当時の世界的切手の図案改正傾向ー装飾図案から具象図案へーの流れを受け、新切手の改正機運が高まってきた。国家的事業として多方面から選抜された人材による図案審議会を立ち上げ、数度の協議を経て昭和12年(1937年)5月11日に最初の切手2銭乃木大将が発行された。これは葉書料金であった。次いで8月1日に封書料金の東郷元帥切手、というように昭和15年2月1日富士桜図案切手発行まで19種類の切手が発行された。同図案の切手帳2種とコイル切手4種も含めた戦前発行のシリーズを第1次昭和切手という。意匠となった図案は「世界に冠たる日本」を体現する、自然風景・神社・仏閣・人物・装飾図案である。大日本帝国の版図が最大だった時期で、国力が戦前最大の時期を表現した素晴らしい出来栄である。ぜひ作品で「みほん」加刷等で見事な初期印刷を見てほしい。

昭和16年12月8日、米英との戦争に突入。中国戦線をも含めて「大東亜戦争」と閣議決定。欧米の植民地支配からの解放を目指した戦争であった。17年4月1日封書料金等の改正。同日5銭東郷元帥切手発行。まだ連戦連勝の気分に浮かれた時期であった。しかし同年6月ミッドウェイ海戦の大敗で暗転。次第に国民生活に陰りが見え始め、19年4月1日に封書料金7銭・葉書料金3銭に改訂する頃には、用紙・印刷ともその製造能力の低下は否めない状況になってきた。20年4月1日封書料金10銭・葉書料金5銭に改訂された頃には目打なし、糊なしの切手も出現するほどの製造能力低下であった。8月15日終戦の詔勅。9月2日ミズーリ号での降伏文書調印。占領下日本の時代に入る。この戦時中に発行された22種類(目打・糊区別)の切手を第2次昭和切手と称する。この時期は南方占領地に持ち込まれて使用されたので大日本帝国史上最大の勢力圏を形成した。タイトルリーフの地図がそれである。この地図は欧米の認識で作成されたものなので、満洲・蒙古・中国占領地も含んでいる。

20年東京大空襲により印刷局消失。残った紙幣寮で少数製造できるのみになったので、民間会社にオフセット(平版印刷)によって製造を計画。実際には終戦後の10月頃出現。戦時中に計画、戦後に占領下日本で使用されたオフセット印刷の切手10種を第3次昭和切手と称する。

以上のように、第1次～3次は使用された歴史的背景も製造面も異なる。伝統郵趣作品として、冒頭にアーカイブ展示後は、1～3次切手ごとに、額面順に配置した。この作品でしか見られないアイテムが多数、赤枠に注目して見てもらいたい。

## JAPAN:Showa Series,1937-46

First Showa Series  
Flat plate printing

2 Sen Gen. Maresuke Nogi

issued:10 May 1937



10

## JAPAN:Showa Series,1937-46

First Showa Series 30 Sen Torii of Itukushima Shrine, Miyajima issued:3 April 1939  
Engraved

Late Printing imperforated error  
only one known as imprint block of 10



This error stamp was discovered in the post office in the Sapporo city at December 1943. Afterwards, these were divided. This is a block at No.85-100 position in this seat.

